

2017.3.21

第159号

# ながの 社会福祉士会 NEWS

■発行：公益社団法人長野県社会福祉士会  
会長：三村 仁志  
■編集：広報編集委員会

■事務局：〒380-0836  
長野市南県町685-2 長野県食糧会館6F  
■発行部数：2,200部

■TEL：026-266-0294  
■FAX：026-266-0339  
■E-mail：info@nacsww.jp  
■HP：http://nacsww.jp/

## 目次

- 県下各地で総合事業・子どもの貧困等をテーマに  
セミナー・シンポ開催！ ..... 1～3
- 4地区総会 ..... 4～5
- 信州ぐるっと!! ..... 5
- 「社会福祉士として仕事を行う上で影響を与えられた人物」 ..... 6～7
- 私の地区の学習会 ..... 8
- リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～ ..... 8
- 今後の予定 ..... 8
- 編集後記 ..... 8

Nagano Association Certified Social Workers

## 県下各地で総合事業・子どもの貧困等をテーマにセミナー・シンポ開催！ —県社会福祉士会地区役員および各種委員の選出等を行う地区総会も開催—

### 総合事業を実際の取り組みから学ぶセミナー

- ◆日時 2月18日(土) 13:30～15:30
- ◆会場 松本市松南地区公民館
- ◆参加者 70人
- ◆内容 実践報告&トークセッション  
◇講師 恵美氏(御代田町)等

詳細P2

### シンポジウム：子どもに寄り添う支援

- ◆共催 日本社会事業大学同窓会長野県支部
- ◆日時 2月25日(土) 13:30～16:00
- ◆会場 長野市柳原公民館
- ◆参加者 80人
- ◆内容 基調講演とシンポジウム  
◇講師 山下英三郎氏  
(日本社会事業大学名誉教授)

詳細P3

### シンポジウム：援助者のこころの健康

- ◆日時 2月18日(土)  
13:30～15:30
- ◆会場 茅野市文化センター
- ◆参加者 40人
- ◆内容 基調講演とシンポジウム  
◇講師 濱口 史江氏  
(老人保健施設「虹の森」医師)

詳細P3

### シンポジウム：子どもの貧困を考える

- ◆日時 2月25日(土)  
13:30～16:30
- ◆会場 佐久大学2号館
- ◆参加者 110人
- ◆内容 基調講演とシンポジウム  
◇講師 鈴木 忠義氏  
(長野大学准教授)

詳細P2

詳細P4、5

### 障がい理由とした差別の解消に向けた地域セミナー

- ◆共催 長野県/長野県身体障害者福祉協会/  
伊那市社会福祉協議会
- ◆日時 2月22日(水) 13:00～16:30
- ◆会場 伊那市公民館
- ◆参加者 92人
- ◆内容 基調講演とシンポジウム  
◇講師 尾上 浩二氏(DPI日本会議副議長)

### 東北中南信地区総会開催!!

地区総会は2月18日に中南信地区が、2月25日は東北信地区が開催され、平成29・30年度の地区三役や各種委員会委員が4地区合計で170人選出された。  
 ※選出された支部長は地区選出理事候補者  
 ※各種委員は、今後委員会が開催され、互選された委員長が委員会選出理事候補者  
 ※理事候補者は6月10日松本大学で開催の定時総会で役員に選出され正式に始動する。



## 総合事業を実際の取り組みから学ぼう！（中信地区）

2月18日、松本市松南地区公民館で「総合事業を実際の取り組みから学ぼう！」をテーマに、約70人の参加者とともに理解を深めました。第1部として長野県で最初に総合事業に取り組んだ御代田町（川端恵美氏、柳澤早知氏）、中信地区より松本市（北條悟氏）、朝日村（坂口功氏）から実践報告をいただきました。第2部ではトークセッションにより自治体の現状や課題それぞれの役割を、これから実施する安曇野市の新保賀朗氏を加え、介護保険の今後のあり方についてそれぞれの立場で提言をいただきました。



### 【発表者の提言】

- 川端氏：住民主体サービスの育成に力を入れている。時にはサービスのメンテナンスが必要である。
- 北條氏：各地区の特性にあったサービスの開拓、育成と意識改革を行う。
- 坂口氏：通所サービスBの開拓、住民互助の意識で進めていく。
- 新保氏：住民主体サービスをしっかりと構築していく必要がある。

### 【参加者のご意見・ご感想】 参加者アンケートより抜粋

- 各地域の取組や実状等、異なる地域の事例が聞けてよかったと思いました。官民ともに目標や目的を共有し取り組む必要が重要だと改めて思いました。
- 市町村の行動力がかなり重要になってくるんだと感じました。しかしこれからの課題に向けて、住民や事業所等と一緒に考えていかないと対応しきれないと思いました。
- 小さい町村では現在高齢者の人数が減っていく中で、介護保険の事業所自体が存続できるか不安を感じているこの頃です。県内の中の状況や事業所の現状などを考えたり、意見交換ができる場があると良いと思います。

## シンポジウム「子どもの貧困を考える」（東信地区）

2月25日、佐久大学で、子どもの貧困について実情を捉え、各立場で何ができるかを深めるシンポジウムを開催、社会福祉士ほか専門職や市民約100人以上が参加。前半は、長野大学の鈴木忠義准教授から、国と長野県の子どもの貧困について現状と課題の基調講演。パネルディスカッションでは、4人から実践の発表があり、会場の皆さんと活発な意見交換をして議論を深めました。（登壇者は社会福祉士会会員）



### 講演・パネルの主な内容

講演：長野県の現状として生活保護の捕捉率から潜在的なニーズがあると考えられ貧困を可視化する必要性がある、子どもの貧困は経済的な貧困のみではなく、育ちの環境が不足する等。弓田氏：「スクールソーシャルワーカーは、学校外の連携と学校内のつながりも大切な役割」、美谷島氏：「子どもの居場所は子ども一人ひとりをよく見ての育ちを受け止める役割がある」、鈴木氏：「貧困というラベルを貼らずだれでも参加できる開かれた機会が必要」、佐藤氏：「子ども期の育ちの環境に早くフォローすることが重要」

### 講演に参加して…

共通して話されたのは、子どもの貧困は子どもだけを支援しても解決できるものではなく、親世帯の生活困窮をなくしていく支援が必要であるが、制度の狭間の見えにくい課題に対し見逃さないよう心を配り、親も子どもも社会から孤立させない支援を行っていかねばならないという言葉でした。私は今何をすべきか、深く考える研修となりました。

（社会福祉法人かりがね福祉会「風の工房」 相馬 律子）



### 【パネリスト】

- 弓田 香織 氏  
（南信教育事務所）
- 美谷島越子 氏  
（フードバンク信州）
- 鈴木 忠義 氏  
（長野大学准教授）

### 【コーディネーター】

- 佐藤もも子 氏（東御市社協）

## 援助者のこころの健康（南信地区）

2月18日に平成28年度南信地区シンポジウム「援助者のこころの健康～より良い支援のために～」が茅野市文化センターにて開催され、会員を含め約40名の参加がありました。

第1部では、濱口史江医師（介護老人保健施設「虹の森」）より「援助者のこころの健康について」をテーマに講演がありました。感情のコントロール方法や解決策に正解はないが、自分の気持ちを一定に保ち、職場内でのコミュニケーションや支援体制の整備など、継続して取り組むことが必要という提言がありました。

第2部では、介護施設・市役所・NPOの現場に勤務している3人のパネリストが「私たちが良い支援をしていくために大切なこと」について意見交換をしました。そこに共通していたのは、「支え合う仲間がいることの大切さ」でした。それぞれの立場から提言をいただき、有意義なパネルディスカッションとなりました。



### 【パネリスト】

- 北沢 将広 氏（介護老人保健施設）
- 長田 香織 氏（茅野市役所）
- 河原 淳史 氏（NPO法人あづみ野）

### 【コーディネーター】

- 勝又小百合 氏  
（南信州広域連合地域自立支援協議会  
権利擁護部会長）

### 【参加者の報告・感想等】 ※参加者アンケートより

- ・チーム・組織で対応することの大切さを感じました。
- ・職業柄、1人で仕事をする場面も多く、同じ悩みを抱えるのは自分だけではないと安心しました。
- ・たいへんわかりやすく、共感できて良かったです。

## 「子どもに寄り添う支援とは」（北信地区）

### ー子どもの貧困と地域支援について考えるー

子どもの貧困と地域支援について考えるシンポジウムが2月25日に長野市の柳原公民館で開催され、約80人の参加がありました。日本社会事業大学名誉教授の山下英三郎氏の基調講演のあと、3名の報告者を交えてのパネルディスカッションが行なわれました。コーディネーターは福祉活動委員会の内田宏明委員長が務めました。



山下先生の基調講演の中で、今日子どもたちは「経済的貧困」だけではなく「関係的貧困」に直面しているというお話がありました。子どもたちが誰からも理解、尊重、支援されず自己肯定感を失っていく、そんな悲しい状況を見過ごすことはできないと強く感じました。

教育現場からは、「もう見てはもらえない。行動を起こそう」と島田先生が熱い想いと地域のネットワークづくりへの意欲を語られました。渡邊副院長からは、「子どもの貧困は胎児のときから始まっている。子どもの成長ステージに合わせた絶え間ない支援体制を構築したい」、丸山さんからは、「高齢、子ども、障がい等の分野を越えて、地域で家族全体を支援していきたい」との頼もしい提言がありました。また、会場からは「適切な機関につなぐだけでなく、末永く地域で暮らせるような支援が大切」という貴重なご意見もいただき、地域共生社会実現の可能性をひしひしと感じました。「小さな一歩でもまずはやってみよう」と、参加者の皆さんからパワーをいただいた1日となりました。

（北信地区福祉活動委員 子ども部会 曲淵 紀子）



### 【パネリスト】

- 島田 和政 氏（綿内小学校教諭）
- 渡邊 貴之 氏  
（板倉レディースクリニック副院長）
- 丸山 沙織 氏（池田町役場）

### 【コーディネーター】

- 内田 宏明 氏  
（本会理事、福祉活動委員会委員長）

## 4 地区総会

～社会福祉士として、地域の福祉向上に寄与すべく、特色ある活動を目指すことを確認しました～

### 北信地区

北信地区は今年度4回の地区学習会を開催しました。会員や関係専門職を中心とした研修と交流の場づくりに取り組んだ結果、内容の充実と参加者数の増加などの成果が得られた1年でした。地区学習会は、障がい、高齢、地域福祉のそれぞれの部会を中心に開催されました。また子ども部会を中心として、総会後に基調講演とパネルディスカッションを開催しました。

新しい役員体制については、三役は留任となり、長峰支部長、野口、山本両副支部長、澁澤庶務会計の体制の継続になりました。また新しい取り組みとして発足した災害支援部会が追加され、同じく新しく発足した「ひよこ部会」の委員は福祉活動の「地域福祉」に入ることになりました。

(北信地区 広報編集委員 鈴木 太郎)

### 東信地区

平成29年2月25日に開かれた東信地区総会にて、学習会や委員会の報告と来年度の事業計画の承認があり、地域の福祉的課題を共有していくことを確認。また、新年度の役員が決定されました。

私もこのたび、東信地区の広報編集委員として承認され、大変の引き締まる思いで会に参加しました。岩澤支部長や退任される方々のご挨拶の中で、会への参加や役員の任務を通して、会員同士が切磋琢磨し自身のスキルアップにつながったお話や退任後も社会福祉士として地域に貢献していくという決意表明をいただき、私自身も皆様のように志高く活動に参加させていただこうと決意を新たにしました。

東信地区の広報編集委員は、私を含め2名の新任が加わりました。会の活動をより多くの皆様にお届けできるよう取り組んで参りますので、よろしく願いいたします。

(東信地区 新広報編集委員 林 里佳 \*写真右  
新広報編集委員 菊池 智子 \*写真左)



### 南信地区

2月18日に平成28年度南信（諏訪・上伊那・南信州）地区総会が茅野市文化センターで開催されました。南信地区会員268人のうち、出席者は30人、委任状提出者は109人でした。

始めに、勝又小百合支部長より、「平成28年4月の公益社団法人移行により新たな組織による活動が始まり、いかに地区活動をしっかり行うかが重要になってくる。」と挨拶。

平成28年度の事業報告として「ブロックごとに福祉活動委員会と連携して学習会のテーマを決め、概ね2ヶ月に1回学習会を開催した。会員同士が情報交換する良い機会になった。」と報告がありました。平成29年度の事業計画として各委員会開催の研修や、平成28年度と同様の頻度（概ね2ヶ月に1回）でブロックごとに学習会を開催することが承認されました。

また役員の改選にあたり、平成29・30年度の地区三役（支部長・副支部長・庶務）および各種委員会の委員候補者について承認されました。

(南信地区 広報編集委員 増田 隆一)

## 中信地区

2月18日に中信（松本・大北・木曽）地区総会が、松南地区公民館で開催されました。中信地区の会員264人のうち、委任状提出者は104人、出席者は46人で行われました。杉本博志支部長は「昨年4月より、本会は公益社団法人に移行された。今後は、県民の権利擁護や虐待防止など、本会の果たす役割は大きくなる。現在本会への加入率は31.2%と全国第6位ではあるが、さらなる会員の増加が必要とされる」と挨拶。本年度の事業報告として「高齢・障がい・子ども・地域などの各分野の学習会や会員同士の交流会の実施、また学生や関心のある方に向けて『社会福祉士とは何か』という説明会を行うことで、本会の活動の理解増進に努めることができた。次年度も関心に沿ったテーマを選定して活動していきたい」と報告がありました。

次年度の計画として「会員一人ひとりが主役の地区運営」という基本方針を継続し、6月に開催される本会の「まるごと学会」と定時総会の成功を目指すこと。そして学習会や交流会、説明会を継続的に行うことで、地区会員間のネットワークづくりを促進していくことが承認されました。

また改選期にあたり、地区内における役員や各種委員会の委員候補者についても承認され、新たなスタートを切ることとなりました。（中信地区 広報編集委員 古田 宗範）



## 信州ぐるっと ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

### 「障がいのある方々も含めた地域包括ケアシステムの構築へ向けて」

中信地区 倉科 準 二

国の進めている地域包括ケアシステムの構築のお役に立てるようと思い、昨年の秋に会社を立ち上げました。現在は高齢者や認知症のある方々を中心とした権利擁護業務を行いながら、地域づくりのために民生委員や議員、地域の方々に声をかけているところです。民生委員の方でも、地域包括ケアシステムの言葉を知らない方がおり、より一層の働きかけが重要だと痛感しているところです。また、高齢者のみならず、障がいのある方々にも目を向けた活動をしていかなければならないと思い、6,000平米に1,000本ほどのブルーベリーを業者の方に植えてもらい（今後10,000平米に拡大予定）、そこから観光農園化と6次産業化につなげ、障がいのある方々の働く場の創出ができればと四苦八苦しながら活動しています。全く未経験のところから始めたものもあり、多くのご支援者の方々のご協力とご指導があって、今の事業が成り立っています。本当に感謝の念に堪えません。



ブルーベリー畑

# 特集 「社会福祉士として仕事を行う上で影響を与えられた人物」

## 東信地区



**勤務先** 医療法人緑風会 介護支援センターゆとり  
**氏名** 中野 純

### 影響を受けた人について

金川洋・優子ご夫妻です。今はお2人で一般社団法人後見ネットあいあいを主宰されています。洋氏は元日本社士会専務理事、前佐久市社会福祉協議会会長で、現日本成年後見法学会常任理事、優子氏は看護師、保護司、長野トラブルシューターのまとめ役でもあります。

### その理由

仕事も新婚生活も思い描いていたものとは程遠く、東京に戻ろうかなあと現実逃避ばかりしていた13年前。佐久支部の学習会に初めて顔を出したら「終了後、金川さん宅で懇親会を開催する」と参加者は浮足立っていました。「初参加だし今日は帰ります」と遠慮したら「社会福祉士はネットワークづくりが大切でしょ」と挑発され、初対面なのにお宅訪問してしまいました。豊富な知識を惜しみなく語り「オランダでIFSWが開かれるから一緒に行こうよ」と皆に呼びかけるグローバルさに唖然とし自分の小ささを恥じ入るばかりでした。

### 影響を受けた後、どんな風に社会福祉士の仕事に活かしていますか？

成年後見人養成講座を受けたものの、受任する勇気が湧かなかった2年間…ご夫婦で「フォローするから」と声をかけ続けてくださったおかげで、6年前から受任中です。オープンマインドであることや依頼されたことには応じられる自分でありたいと日々努力しています。

### 影響を受けた人からのコメント

びっくり、大変面映ゆいです。これからもノミネーションを大事にします。でも、体力の衰えが……

## 中信地区



**勤務先** 北アルプス医療センター  
あづみ病院 地域福祉科  
**氏名** 西澤 亜紀

### 影響を受けた人について

私が社会福祉士として仕事を行う上で影響を受けた人は、一緒に仕事をしている医療相談室の先輩たちです。

### その理由

病院で仕事をしていると様々な専門職との間でお互いの価値がぶつかることが多々あります。ともすると社会福祉士として何を大切にしているのか見失いそうになることがあります。そのような時に先輩の仕事ぶりを見たり、先輩と話をすることで、社会福祉士として仕事をする勇気をもらえるからです。

### 影響を受けた後、どんな風に社会福祉士の仕事に活かしていますか？

仕事で悩んだり落ち込んだりする日々の連続ですが、先輩たちがいてくれることで、社会福祉士として病院で仕事をするためのモチベーションが維持できます。

### 影響を受けた人からのコメント

日々の疑問を同僚と話すことで、教えられたり気づかされたりすることがたくさんあります。社会福祉士会を通して、その仲間を増やして欲しいとのコメントをいただきました。



生活を送る中で他者から影響を受ける機会は多々あるでしょう。今回は「専門職として働く上で影響を受けた人」を思い起こし、一緒に写真に収まり、コメントももらってみました。

## 南信地区

### 勤務先

社会福祉士事務所  
あかね雲

氏名 森 寿枝

### 影響を受けた人について

認定社会福祉士・独立型社会福祉士として、はなな社会福祉士事務所を経営されている花田百恵さんです。



### その理由

ばあとなあんの活動が比較的活発な地域から移住してきたせい、地域の成年後見制度の周知の遅れに唖然としました。医療福祉職の方に、「成年後見人の成年ってどういう字を書くの?」と聞かれたり、近所の方に「社会福祉士事務所って何するところ?」と聞かれたりと、周知の遅れゆえのいろいろなギャップに悩んでいました。

そのため、独立型として事務所を構えたものの、当然、受任件数もなかなか上がりず、生活のために皿洗いのバイトをしていた時期もありました。

こんな時に、いつも叱咤激励してくださったのが花田さんです。おかげさまで、現在では受任件数もようやく2桁になり、地元の専門学校の講師として依頼されるなど、経営も軌道に乗り始めました。

### 影響を受けた後、どんな風に社会福祉士の仕事に活かしていますか?

ご本人の収入より料金が安い施設に入居させられ、資産が著しく減少していた利用者様を救出することが難しく、悩んでいたところ、花田さんに「ご本人の利益のためには、あきらめてはいけない」と、厳しく言われたことがあります。その後、無事に養護老人ホームに入居させることができた時には、真っ先に花田さんに報告しました。どんな状況にあっても、ご本人の「その人らしく生きるための支援」のために「あきらめない姿勢」を貫いていきたいと思えます。

### 影響を受けた人からのコメント

森さんは、どんなに厳しい状態であってもご自分の信念を曲げないで取り組んでくださいました。その結果、周りから信頼されて頼られる存在になってきました。「楽しさ・醍醐味・怖さ」の独立型社会福祉士ですが、仲間とともに一步一步前に進みましょう。

## 北信地区

### 勤務先 (株)のっこい

氏名 浅井 茂



### 影響を受けた人について

12年ほど前、通信の学生だった当時、まだ少なかった、独立型社会福祉士事務所を立ち上げ、介護支援専門員としての業務と後見を10件ほど行いながら、生計を立てている人が居ました。

### その理由

社会福祉士事務所生活できるのと聞くと、定期的な収入は居宅介護支援事業しか無いけど、講師であっちこっち頼まれるんだよと、笑っていました。

ただ大事なものは、今度遊びに来なよと社交辞令で言われたら、必ず顔を出しているようで、それがネットワークを広げるコツだよと言われ、この歳になって判ってきたような気がします。

### 影響を受けた後、どんな風に社会福祉士の仕事に活かしていますか?

1~2年に一度は、会いに行き泊めてもらったり、こちらの温泉に泊まりに来たり交流を続け、こちらの役に立つことは少ないのですが、都内の状況や全国の状況が聞けるので、感心することばかりです。

たとえば、最近の電話での話で「介護予防・日常生活総合事業」の都内での様子を聞くと、A型訪問介護に関しては、自転車で行ける距離に、お客さんがいる好条件で、採算ラインにあることを知りましたが、地域格差と、車での移動手段が必要な地域では、採算を割ってしまう可能性が高いことを知り、様子を見る必要性を知りました。

地域によって加算がありますが、自転車で移動する地域に高い加算があり、車で移動しなければいけない地域では加算がほとんどありません。介護保険の矛盾した一面を改めて感じました。



## 私の地区の学習会

### 総合事業の研修に参加して

北信地区の地域福祉部会では、1月19日に学習会「我が事・丸ごとの事業展開を目指す『総合事業』とは～新制度を活かした地域づくりを考える～」を行った。

将来、日本の総人口は減少が見込まれる中、65歳以上の人口の割合は増加の一途を辿っている。そのような状況に対応すべく新介護予防・日常生活支援総合事業が始まる。障がい分野に身を置く私には概要を理解するのが精一杯であったが、キーワードは「住民主体」であると感じた。研修では概要説明の後、実践報告が行われた。

総合事業において、生活支援コーディネーターは地域のリーダーとしての役割が期待されているが、資格要件は求められていない。国が専門職に期待する面は感じられないが、その中で社会福祉士が知識・技術を用いて、つなぎ役としてコーディネーターの育成等に関わっていくことが必要であると思う。（北信地区 竹内 雅智）



リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～

### ～障がい者就労の相談業務を行って思うこと～

松本圏域障害者就業・生活支援センターらいと  
就業支援ワーカー 北林 邦彦



私は平成28年4月から松本圏域障害者就業・生活支援センター「らいと」で勤務しています。地域の障害がある方から就職や職場定着のための相談を伺い、必要なアドバイスや社会資源の紹介等、直接的な支援ではなく社会資源とのつなぎのような役割をしています。連携を取らせていただく社会資源は、福祉関係だけでなく、企業など福祉以外の分野もあります。

地域の障がいのある方が就職し働き続けるためには、他機関との連携は大切なことだと感じています。しかし、どのように連携を取り、つないでいけばよいのか迷うことが多いです。私自身まだまだ未熟だと感じ、学習することや関係機関とのつながりをつくりながら、自己研鑽をしていかなくてはと思う日々です。

次号は、「一般社団法人ゆらゆら ゆらり相談支援支援センター」中村修さんにバトンタッチします。



## 今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<http://nacsw.jp>) をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
3月4日(土)	第6回理事会	長野県食糧会館 会議室	
3月7日(火)	ぱあとなあ業務監査委員会	長野県食糧会館 会議室	
4月22日(土)	平成28年度監査、平成29年度第1回理事会	長野県食糧会館 会議室	

◎ 入会状況 (平成29年1月末現在) \* 会員数：1,094名 入会率：31.19% 人口10万人あたりの会員数：52.1%

## 編集後記

2月25日に、本会主催で子どもの貧困をテーマにしたシンポジウムを北信・東信で開催しました。社会情勢の変化により喫緊の課題として、専門職と地域が力を合わせて取り組みを行う必要があります。社会福祉士に求められることとして、相談援助を専門性をもって行うことはもとより、起こっていることを正確に社会に伝える、専門職と地域のみなさんをつなぎ支援の輪をつくる、また官民の力を合わせたさまざまな取り組みを創造していく等があげられます。それぞれの立場で「最善」を尽くす専門職としての動きを考えていきましょう。(M.S)